

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催日時・場所

日時	平成30年1月12日13時30分～14時00分	場所	医師会館理事長室
----	-------------------------	----	----------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	牛久保西町内会 会長
松本 裕	地域住民の代表者	中川地区民生委員児童委員協議会 会長
成田 真一	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (欠席)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫 (欠席)	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
小川 憲章 (欠席)	当該サービスに知見を有する者	小川メディカルクリニック 院長
谷合 清佳	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
大山 学 (欠席)	法人代表	
吉井 涼子	管理者	
宮島 佳代	看護主任	
箕輪 善果	看護リーダー	
朝比奈 ゆかり	介護主任	
青柳 かおる		
後藤 瑞佳	事務	
加藤 萌子	事務	

4. 活動状況報告

別紙のとおり

(裏面あり)

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

【インシデントについて】

- ・薬飲み忘れ、洗濯時のティッシュ汚染は、自分もしょっちゅうやっている。日常的事務なので、そこまでビクビクする必要はないのではないか、細やかなことまで管理されているのは素晴らしいと感じるが、
- ・インシデントの内容が軽いうちに防ぎ、重大なミスに繋がることがないように引き続きみんなで気を引き締めていけばよい
- ・皆さんが忙しすぎる。職員を増やし、仕事を整理して省略化できればいい。
- ・運転手雇用時は、面接時に隣に乗って技術を確認している。
- ・介護度が高い人が多いので、職員人材が育っていけば今後また変わっていくだろう今は育成期間。育成期間が終われば、インシデントも減ると期待している。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

【インシデントに対する考え方】

- ・ルールを作成しても浸透していない。教える人によって内容が異なってしまう現状があり、現在、新任職員向け一からマニュアル作成を開始した。分からない時に確認することができるもの。インシデントの内容等を組み入れていきたい。

7. 地域からの情報提供

- ・1月14日、牛久保西町内会のどんど焼き

8. その他特記事項

常勤スタッフの自己評価後、事業所評価し、3月の運営推進会議で皆さんの意見を追記し、市へ報告をする。

- ※ 会議は原則事業所内で行ってください。
やむを得ず他の場所で開催する場合、必要に応じて事業所内の見学を行ってください。

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況

登録者数(12月1日現在)	女性 9 名		男性 5 名		計 14 名	
要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請・区変中
	1 名	2 名	0名	3 名	8 名	0 名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者	年齢	通い	泊まり	訪問看護	訪問介護	備考(入所日、退所日など)
ア	58	20	0	1	0	
イ	82	19	0	1	0	
ウ	93	12	8	3	0	
エ	98	16	12	4	76	
オ	97	25	21	4	8	
カ	86	6	5	0	6	H29.12.1開始
キ	89	22	18	22	9	
ク	71	1	0	0	0	
ケ	93	26	25	0	0	H29.12.25終了
コ	79	20	15	0	4	
サ	84	22	2	4	39	
シ	55	8	0	0	23	
ス	76	12	0	6	0	
セ	77	26	24	0	3	
ソ						
タ						
チ						
ツ						
テ						
ト						
ナ						
ニ						
ヌ						
ネ						
ノ						
ハ						
ヒ						
フ						
ヘ						
合計		235	130	45	168	
平均	81.3	16.8	9.3	3.2	12.0	

(裏面あり)

4. 運営方針

事業所の目標	【利用者の獲得】1. 適切な職員の確保と黒字転換 2. 「ケアの理念」の実現 「ケアの理念」: その人の「生きる」を支える。寄り添い、理解し、尊重する
目標に向けた具体的取組	1. 求人活動と既存の職員が充実した仕事ができ辞めないようにする 2. カンファレンス記録による情報の共有をしている 3. 利用者や家族の意向を反映した多職種でのケアプランの作成と共有を目指している 4. 研修計画の実施

5. 活動報告

11月 10日(金): ナーシングホーム運営推進会議	12月 4日(月) 入職者オリエンテーション
11月 13日(月): 安全衛生委員会・管理者会議	12月 6日(水) オムツ勉強
11月18日(土): 都筑区小規模多機能型居宅介護連絡会	12月14日(木) NH建物 ALSOK点検
11月25日(土): 第21回事例発表会	12月16日(金) 介護サービス情報の公表調査
11月25日(土): 忘年会	12月17日(土) 大掃除
12月 1日(金): スタッフへのクラフト講習会	12月22日(金) クリスマス会

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容	<p>1. NHの入浴時に着替えをした洗濯物を、利用宅にて訪問介護時に洗濯した。洗濯物を干す夜勤の訪問介護から、洗濯物内にティッシュが混ざっていたと報告を受けた。</p> <p>2. 当該日に帰宅した利用者が、14:30に貼りかえる予定のニトロダームが薬箱に残っていると16時に気がついた。直ぐに訪問し、ニトロダームを貼り換えた。</p> <p>3. 個人の訪問用バックをロッカールームに取りに行っていたが、土曜日で医師会館が施錠されていたので入れなかった。NHに置いてあった通勤時使用しているバックを訪問に使用した。訪問看護に時間がかかり、慌ててしまい、実績記録を取り出すことをせず業務に戻ってしまい、そのまま自宅に持ち帰った。</p> <p>4. 認知症の利用者で内服薬は事業所で管理していた。夕食後の服薬が済み空袋は事務所で保管していた。21時に部屋に行くと、就寝前に内服するはずのアローゼン1包が既にテレビの前に置いてあり、更にゴミ箱には「夕」と印字された薬の空袋を発見した。この状況から、本人が別に持っていた薬を二重に内服した可能性が考えられ、看護師を呼んだ。バイタルサインは変化なく、看護師が担当医に連絡、夕食後薬の内容を鑑み、就寝前のハルシオン1錠は中止するように指示あり。夜間は良眠され、翌朝も体調変化無く食欲もあった。</p> <p>5. 2週間に1回の定時点滴施行時、ダブルチェックを点滴指示書ではなく、物品管理用紙で行なった。点滴終了後に他の看護師が指示書に指示がないことに気がついた。医師に連絡して確認すると点滴は継続とのことで、新しい指示書を依頼した。</p>
改善策	<p>1. NHでの入浴時の着替えた衣類は、ポケット内と裏返して確認し、訪問介護の際には、再度、確認する。</p> <p>2. カンファレンス中でも直ぐに貼りかえる。日勤の薬のダブルチェックでの最終確認のためのアラームを再設定した。</p> <p>3. 個人の訪問バックを使用せず、NHの訪問バックを作る。訪問後は、実績記録書を定位置に戻す。</p> <p>4. 家族の協力を得、本人が薬を隠しているようなら知らせてもらう。来所時は、ご本人には気づかれないように確認し、アローゼン以外は事業所管理とすることとした。</p> <p>5. ダブルチェックは、内容・期間を指示書で確認することを再度、共有した。業務ソフトを改正中であったため、点滴のチェック欄に「期間」を設け、留意を促すようにした。</p>

7. 地域への情報提供

特に無し

8. その他特記事項

3月は、事業所評価を行う予定です。
